



第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会

ランチョンセミナー2

褥瘡予防のための スキンケア (保清と保湿)

日時 2025年5月17日(土) 12:10~13:00

会場 B会場 (長崎ブリックホール 3階 国際会議場)

講演.1

癒しのスキンケア革命

～ドライスキンから褥瘡まで～

演者 室田 浩之 先生

講演.2

看護における癒しの肌ケア

～褥瘡における予防的スキンケアの重要性～

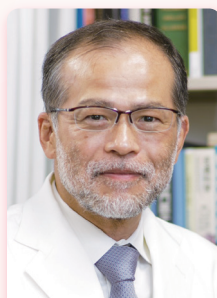
演者 東島 愛美 先生



座長

波多野 豊 先生

大分大学医学部皮膚科学講座
教授



演者

室田 浩之 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
皮膚病態学 教授



演者

東島 愛美 先生

第一三共ヘルスケア株式会社
専属看護師

ご案内

ランチョンセミナーは学術集会参加者のみご参加いただけますので公式HPより
事前参加登録または当日会場にて参加受付をお願いいたします。

ランチョンセミナーの事前受付はございません。

当日9:00より1階「共催セミナー整理券配布所」にて整理券を配布いたします。

整理券はプログラム開始 5 分後に無効とし、キャンセル待ちの方をご案内いたします。

HPはこちら



共催: 第一三共ヘルスケア株式会社/第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会

講演.1 癒しのスキンケア革命

～ドライスキンから褥瘡まで～

室田 浩之 先生 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚病態学 教授

私たちの皮膚は、「角層」と呼ばれる厚さわずか食品用ラップほどの薄い膜で覆われています。この角層はレンガの壁のような構造をしており、レンガに相当するのが角質細胞、モルタルに相当するのが角質細胞間脂質です。これらが一体となって強固なバリアを形成し、知らず知らずのうちに私たちの健康を守っています。

角層バリアは日々新たに作り直されることで機能を維持していますが、過酷な環境にさらされたり、加齢に伴いその維持が難しくなります。特に露出部のみならず、臀部や陰股部も過酷な環境にさらされやすく、これらの部位では角層バリアの破綻が皮膚トラブルの要因となります。褥瘡がある場合、角層バリアの損傷は病態の悪化にも関与します。

損なわれた角層バリアの修復や維持には、洗浄や保湿といった身近なスキンケアが有効です。本講演では、特に臀部の皮膚トラブルの症例を供覧し、適切なスキンケアのポイントについて紹介いたします。

ご略歴

1995年3月	長崎大学医学部卒業
2003年3月	長崎大学大学院修了
1995年5月	長崎大学医学部皮膚科 入局
2003年3月	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 助手
2004年4月	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学 助教
2012年4月	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学 講師
2014年4月	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学 准教授
2018年5月	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 教授
2024年4月	長崎大学病院 副病院長
現在に至る	

MEMO

講演.2 看護における癒しの肌ケア

～褥瘡における予防的スキンケアの重要性～

東島 愛美 先生 第一三共ヘルスケア株式会社専属看護師

褥瘡は、入院患者や寝たきりの方において重大な問題であり、患者のQOL(生活の質)を著しく低下させる要因となる。本講演では、「癒しのスキンケア」という観点から、褥瘡における予防的スキンケアの重要性について考え、看護スタッフが実践できる保清と保湿の実践的なアプローチをご紹介します。

保清の目的は患者さんの皮膚を清潔に保つことであるが、バリア機能を低下させない適切な洗浄剤を使用し、優しく皮膚を洗うことで、感染のリスクを減少させることができる。さらに保湿は、皮膚のバリア機能を保つために欠かせない。

バリア機能が低下している皮膚は褥瘡のリスクを高めるため、皮膚を清潔に保ち、保湿剤を効果的に使用してバリア機能を高めることが重要である。特に仙骨部、踵部、尾骨部などの骨突出部は、重点的にケアをする必要がある。

本講演では、看護における癒しの肌ケアとして、肌へのやさしさを考えた洗浄剤の選び方や正しい保湿剤の使用量や方法などを紹介する。

看護における保清と保湿をご紹介しますことで、患者さんのQOLを向上させるとともに、褥瘡予防につなげたい。

ご略歴

2016年3月	日本大学医学部附属看護専門学校卒業
2016年4月	日本大学医学部附属板橋病院に看護師として勤務
2023年2月	
2023年6月	第一三共ヘルスケア株式会社 専属看護師

MEMO